

今後の取組予定

令和 7 年度の事業評価では、坂出市地域公共交通計画、坂出市地域公共交通利便増進実施計画に基づく取組により、利便性向上や利用促進による利用者数の増加、路線再編やゾーン制運賃による運行の効率化と収支率の向上、持続可能な公共交通の実現に資する効果が確認された。一方で、中心市街地活性化公民連携事業などのまちづくりとの連携、デマンドタクシー運行における配車事務の負担軽減の必要性が確認された。

また、島田岡田線・瀬戸大橋線の地域間幹線における利用者数の減少や、デマンドタクシー運行事業者の廃業・代替交通の開始などの課題も生じているところである。

今後の取組の効果をさらに高めるためには、引き続きモビリティマネジメントに取り組んでいくとともに、依然として厳しい乗務員不足の状況においても、将来の持続可能な公共交通を実現するために、本年度も自動運転バスの実証運行を計画している。

（１）モビリティマネジメント関係

○利便増進計画推進事業

①タブロイド紙作成

- ・公共交通利用者や運転手にフォーカスをあてるなど、見た人の関心を惹き、公共交通利用への行動変容を促すタブロイド紙を、令和 7 年度に作成
- ・読者から好評で、公共交通の魅力認知につながっているため、一部修正のうえ増刷

②効果検証資料作成

- ・地域公共交通計画、地域公共交通利便増進実施計画に基づく各種取組実績や、その取組による相乗効果をまとめた資料を作成し、取組への認知度向上や効果促進を図るもの
- ・令和 7 年度に作成し、取組の P R や理解促進に役立ったため、直近の情報に更新して作成

○中高生サマーパス

- ・夏休み期間の中高生をターゲットとした利用促進として、令和 6 年度から実施している、TicketQR アプリによる格安乗り放題定期券を実施

○市内 3 金融機関・商工会議所・香川短期大学・四国経済産業局の協力によるバス利用促進事業

（さかいでバスのとく？キャンペーン）

- ・四国経済産業局より提案を受け、各種企業・団体・学校の協力のもと、公共交通の利用を通じたウォークアブルなまちづくりによる地域活性化を目的とし、バスの利用者が、公共交通キャッシュレス決済アプリ「Ticket QR」の乗車履歴や定期券・乗車証明書を提示すると、市内の協力店舗でサービスを受けることができる特典制度を実施する事業

令和 8 年 8 月より事業実施予定

（２）自動運転バスの実証運行

○背景

- ・高齢社会において地域で公共交通の果たす役割が重要となっている一方で、乗務員不足により、令和６年度に坂出エリアでも大幅な減便が発生するなど、路線バスサービスの維持が困難な状況となっている
- ・中心市街地活性化公民連携事業においては、拠点施設整備後、拠点間(坂出駅前複合施設、坂出緩衝緑地)の回遊需要を満たす公共交通手段が不可欠な要素である
- ・このような状況において、レベル４自動運転による中心市街地の回遊性向上を図る路線での運行実装を目指して、地域の新たな移動手段を確保する必要がある

○今年度の実施予定

- ・国土交通省の地域公共交通確保維持改善事業費補助金（自動運転社会実装推進事業）の採択を受けて、坂出市を代表団体に、坂出自動車学校・琴参バスとのコンソーシアムにより実施
- ・今年度は自動運転レベル２による１か月程度の無償の実証運行により、データ収集や、市民の受容性向上を図り、令和１０年度に向けて自動運転レベル４による路線バス運行の実装を目指す
- ・運行ルートは、坂出駅から緩衝緑地周辺を含む市中心部を循環するルートを計画して調整中
昨年度より、システムベンダー・導入車両の変更を行う予定



(3) デマンドタクシー 東北・東南エリアにおける運行事業者の変更

- 令和8年2月に、東北・東南エリアにて運行を行っていた事業者の廃業により、交通空白が生じた。
- 令和8年3月より、琴参タクシー（東北エリア）・四国タクシー（東南エリア）の協力のもと、道路運送法第21条第2号に規定される代替交通を運行することとなった
- 乗用タクシーについては、市内事業者の廃業により需要が現状営業している会社へ集中することとなり、デマンドタクシーを含めて受付体制がひっ迫している
そのため代替交通においては、前述の受付体制の制約等から、運行水準を抑えた運行となっており、以前の運行水準への回復が課題となっている
- 令和8年10月からは、県補助事業の活用・市も上乗せ補助を実施し、AIデマンドシステムの導入を支援することで、受付・配車業務の省力化を実現し、運行水準の回復を図る